

## 靴下がない！



次男がまだ幼稚園生だったころのお迎えの帰り道。「これ兄ちゃんの！」と言つて道に落ちていた靴下をつまみ上げました。「やめてー。知らない人の靴下拾わないでー。」私は悲鳴に近い声でそれを花壇の上に置くよう指示しました。

確かに同じ靴下ではありました。黄色と緑の、ど派手なブラジルカラー。でも日本で買ったものなので、ルファンがいるんだわなんて嬉しくなっちゃつたりもしました。家からかなり離れた道だったこともあります。それが長男の靴下であるとは一ミリも考えませんでした。どういう状況で履いている靴下を落としちゃうのかしら。だってその上に靴を履いてるわけでしょう？ アホな男子だなーと思いました。

ですが！ 遊びから帰った長男はまんまとブラジルカラーの靴下を片

にしまってあげるということはしません。人數分のカゴを用意して、毎夕、乾いた洗濯物をそれぞれのカゴに振り分けます。子供たちはいつもそのカゴの中に洗濯物が入っていると私に怒られるので、しぶしぶタンスの中にしまいます。適当に丸めて押し込まれるものだから、タンスの中はぐちゃぐちゃです。

家族のたんすは、春と秋に衣替えと小さくなつた服を仕分けするためには、私がテコ入れをします。日頃ノータッチな分、数日がかりの大仕事です。そうすると靴下が出てくる、出てくる。うまくペアが見つかる靴下もあれば、すでに諦めて相方を捨ててしまつた靴下もあります。たいてい片方が違う人のタンスに紛れ込んでいるのが原因です。

最近は夫と長男の靴下のサイズが同じ。私と娘の靴下のサイズが同じなため、さらに靴下が入り乱れる状況が加速しています。洗濯物の取り

はうちの子でした。翌日、見つけた場所に戻つてみたものの、すでに清掃の方に処分していただいたようでした。すみません…。

小学生になった次男が身支度を一人でするようになり、自分で遊びに行くようになると、長男の比ではなく、次男の靴下はどんどんなくなりました。正確には、片方だけの靴下ばかりになつてしましました。したがつて、次男は左右違つ柄の靴下を履いていることも日常に。今は、男子は靴下をなくす生き物であります。受け入れ、極力同じ靴下をまとめて買うようにしています。片方がなくなつても、まだペアが作れるからです。

### 家庭内での靴下迷子

靴下紛失事件の内訳には家庭内の迷子件数も多く含まれます。

私は家族の洗濯物を畳んでタンス

込みと家族それぞれのカゴへの仕分けさえ、子供たちにやつてもらうことが多く、手伝いを早く終わらせたい子供たちは、かなり適当な仕分け作業になつてゐるのです。

さらに、靴下がなくなる要因が最近増えました。飼い始めた犬です。私は寝る前にベッド脇に靴下とカーデイガンを置き、翌朝の弁当作りに直行できるよう備えて寝ます。ですが、早起きの犬が毎朝片方だけくわえてどこかに持つてしまふのです。ギリギリまで寝ている私は靴下の行方を探す時間はなく、「片足冷たい…」と我慢しながらダッシュで長男の弁当を作つています。

**文・写真  
小宮華寿子**  
二男一女の母で  
編集者。「ブラジルの手しごと」  
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と  
ワークショップの店「マルカジニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。

**イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美**  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆらゆれる北欧風手作りモビール」(ネコ・パブリッシング)を監修。